

伊丹福音ルーテル教会 四旬節第二主日礼拝のしおり

2022年3月13日

前奏

招きのことば：詩編 27 編 1, 4-6, 13-14 節

【ダビデの詩】主はわたしの光、わたしの救い、わたしは誰を恐れよう。
主はわたしの命の砦、わたしは誰の前におののくことがある。/
ひとつのことを主に願い、それだけを求めよう。命のある限り、主の家に宿り、主を仰ぎ望んで喜びを得、その宮で朝を迎えることを。
災いの日には必ず、主はわたしを仮庵にひそませ、幕屋の奥深くに隠してくださる。岩の上に立たせ、群がる敵の上に頭を高く上げさせてくださる。
わたしは主の幕屋でいけにえをささげ、歓声をあげ、主に向かって賛美の歌をうたう。/
わたしは信じます。命あるものの地で主の恵みを見ることを。
主を待ち望め 雄々しくあれ、心を強くせよ。主を待ち望め。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまわり、生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 **アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様は私たちのために苦しみをしのび、自ら十字架につけられるためにエルサレムに向かって進んでいかれました。私たちの代わりにイエス様がおうけになったうち傷や痛みによって、私たちは罪を赦され新しいいのちを得ることができました。イエス様は無力で愚かに見える十字架の死によって、私たちを神様の子どもにしてくださいました。私たちは今、十字架の苦しみを覚えながら、恵まれた光栄を喜びます。今週も私たちが隣人のために喜んで苦しみを担うものとして、与えられた使命に生かしてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：フィリピの信徒への手紙3章17節-4章1節

兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。何度も言ってきたし、今また涙ながらに言いますが、キリストの十字架に敵対して歩んでいる者が多いのです。彼らの行き着くところは滅びです。彼らは腹を神とし、恥ずべきものを誇りとし、この世のことしか考えていません。しかし、わたしたちの本国は天にあります。そこから主イエス・キリストが救い主として来られるのを、わたしたちは待っています。キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。だから、わたしが愛し、慕っている兄弟たち、わたしの喜びであり、冠である愛する人たち、このように主によってしっかりと立ちなさい。

福音書朗読：ルカによる福音書13章31-35節

ちょうどそのとき、ファリサイ派の人々が何人か近寄って来て、イエスに言った。「ここを立ち去ってください。ヘロデがあなたを殺そうとしています。」イエスは言われた。「行って、あの狐に、『今日も明日も、悪霊を追い出し、病気をいやし、三日目にすべてを終える』とわたしが言ったと伝えなさい。だが、わたしは今日も明日も、その次の日も自分の道を進まねばならない。預言者がエルサレム以外の所で死ぬことは、ありえないからだ。エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺す者よ、めん鳥が雛を羽の下に集める

ように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようとしなかった。見よ、お前たちの家は見捨てられる。言うておくが、お前たちは、『主の名によって来られる方に、祝福があるように』と言う時が来るまで、決してわたしを見ることがない。」

讚美歌 257 番

- 1 十字架の上に 屠られたまいし こよなくきよき み神の小羊
わがため悩みを のびたまいし みめぐみげにも とうとし
2. 十字架の上に 屠られたまいし こよなくきよき み神の小羊
み救いあらずば 罪のこの身は 滅びをいかで まぬがれん
3. 十字架のうえに 屠られたまいし こよなくきよき み神の小羊
乏しくかよわき われをあわれみ やすきを常に たまえや **アーメン**

説教：「めん鳥が雛を羽の下に集めるように」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

四旬節です。私たちのために受けてくださったイエス様のお苦しみをみ言葉からたどるときです。イエス様はエルサレムのために嘆きました。「エルサレム、エルサレム、預言者たちを殺し、自分に遣わされた人々を石で打ち殺すものよ、めん鶏が羽の下に集めるように、わたしはお前の子らを何度集めようとしたことか。だが、お前たちは応じようしなかった。」

イエス様は何を嘆いておられるのでしょうか。それは神様からの愛を受け入れない人々への悲しみです。イエス様は十字架に至るまでに肉体的に痛めつけられました。また、精神的に大きな傷を受けました。さらに霊的に神さまに見捨てられてくださいました。これらの苦しみに加えて、人々が神様の真実な愛を受け入れないことへのはらわたがねじれるくらい悲しみを覚えてられるのです。

神様はちょうど母鶏が羽の下にひよこを集めて守るように、エルサレムの民、神の民を何度も重ねて助けようとしてきました。しかし、エルサレムの民、すなわち神の民はそれに応じませんでした。そして、神様からメッセージを託されて遣わされてきた預言者たちを彼らは受け入れず、むしろ石で打ち殺してしまい、神様から愛を踏みにじってきました。

このように、ここでイエス様が嘆いているのは、神様の愛を振り払う人々のためです。神様の愛の御手を何度も振り払って、神様なしで生きていこうとする人々のことを嘆いています。そのままでは彼らの家は滅ぼされてしまいます。それでは持ちこたえることはできません。世の終わりに栄光の姿でイエス様は再び来てくださいます。そのとき、主の名によって来られる

方に祝福があるように、と人々は歌うでしょう。しかし、その日までイエス様を見ないで、イエス様の愛を振り払い続けているなら、その人々は滅んでしまいます。

イエス様は神様の愛を振り払う人々の救いのために人となって来てくださいました。そして、これからエルサレムに向かって歩いておられます。これまで排斥された預言者たちのように黽(なぶり)殺されるために、エルサレムの十字架にむかって歩いておられるのです。人々はエルサレムでイエス様に襲い掛かりました。イエス様を社会から追放したのではありません。ローマ帝国に権威にすりよって十字架刑にして殺したのです。イエス様はそのようになることを知りながら、自分が死ぬのはエルサレムでなければならぬ、と言って、ご自分をお与えになるためにエルサレムへ向かわれたのです。

町や村で教えながらエルサレムに向かって進んでおられたイエス様のところにファリサイ派の人々が何人か近寄ってきました。イエス様、危険が迫っていますよ、と警告にきたのです。かつてバプテスマのヨハネの首をはねて殺したあのヘロデ王が、今あなたの命を狙っています。ここは危ないのですぐに離れてください。こんな警告でした。ヘロデ王は自分が王様であることの権威を脅かすものなら簡単に命を奪った恐ろしい王です。そのヘロデ王がイエス様を探しているというのですからたいへんです。見つかって捕らえられたら殺されてしまいます。

神様の愛を振り払う人々の罪を赦して新しい命を与えるために、イエス様はなんと苦しみで満ちたご生涯を歩まれたことでしょうか。イエス様はまた、この苦しみを避けるような甘い誘惑を受けてこられました。イエス様は公けのご生涯に入られたとき、荒野で三つの誘惑をお受けになりました。悪魔はイエス様がそのご生涯を通して全人類の救いを完成しないように出鼻をくじこうとしたのです。まずは石をパンに変える誘惑に会いました。全人的な救いよりも肉体的な目先の満足を優先させようとしてしました。また、十字架の苦しみを避けるように誘惑されました。人々の心をつかみたいのならわざわざ十字架の苦しみを通らなくても悪魔と手を打てば世の人々の支配者の座を明け渡すと誘惑しました。そして悪魔は、神様の御心ではなくイエス様自身の考えで人々の救いを成し遂げればいいのか、と誘惑しました。神様のお考えよりもイエス様自身の考えと判断で進んで行って、神様に守ってもらうように願ったらどうか、という誘惑です。イエス様は聖書のみ言葉をもってこれらすべての誘惑に打ち勝たれました。それで苦しみを通して私たちの救いを完成してくださることになったのです。イエス様は楽をする甘い誘惑を退けて、わざわざ十字架の苦しみの道を通して私たちの救いを完成していただきました。そのために今や恐ろしいヘロデ王にいのちを狙われる試練に会っておられます。

ヘロデ王が殺しに来る、と聞かれたイエス様は、そのとき三つのことを言われました。ひとつは今日も明日も三日目も自分の働きをこれまで通り進めます、自分の道を進んでいきます、ということ。そして、私はエルサレムで死にます、ということ。更に、エルサレムのために嘆いたということでした。

イエス様はあわてませんでした。ヘロデ王を恐れませんでした。このときに、私は今日も明日も次の日も「自分の道」を進みます、と言われました。「自分の道」とおっしゃいましたが、それは神様のみこころを行う道でした。神の民を愛して、神の民のために歩む道です。行く先々でこれまでどおり悪霊を追い出して病をいやしながら、エルサレムに向かっていく救い主としての歩みを続けると言われたのです。ヘロデ王としてはイエス様がこれまでもそのようなして人々の絶大な信頼を勝ち取ってきたために、自分の立場をあやうくするかもしれない政治的な脅威を感じてイエス様の命を狙っています。しかしイエス様は動じません。預言者のように殺されていく死を覚悟していました。苦しみを引き受けて、私たちの救いを完成する「ご自分の道」を歩まれました。

イエス様がそのようなして私たちの救いを完成して下さったことはなんとありがたいことでしょうか。私たちも神様の愛を振り払って歩む自己中心なものです。イエス様によって罪の赦しをいただいて新しい命に生きるとよいのに、自分の暮らしがよくなるのがいつも心の中心にあります。神様から託されているさまざまな使命については、これはできるだけしたらいいことだ、というように中途半端にしか考えていません。また、これは正しくはない、悪いことだと知りながら、時には流れに任せることで面倒を避けていこうとします。うしろめたさを様々ないいわけで正当化しています。さらに、神様の導きを待つことをせず、また神様の導きがわかっているのにそれに従わないで、自分の思いでものごとを決めてどんどん進んでいきます。そして神様にはそのような自分の好む歩みを祝福してくださいと身勝手に祈ります。私たちはこんな風にして神様の愛を振り払ってきました。そしてそれでもまだ、それは仕方のないこと、自分では自分を治せない、自分には変わることができない事情があると、そんな自分に手を付けずに頑固に歩んでいるのです。イエス様は私たちのそのような姿をご存じです。そのような私たちを見捨てることなく、むしろ自分で変えることのできない罪の性質を赦して新しくしてください。私たちのためにイエス様は苦しみの道を歩んでくださいました。

第二にイエス様は、わたしはエルサレム以外では死にません、と言われました。イエス様はご自分がエルサレムで十字架にかけられて死なれることを知っておられました。知っておられただけではなく、イエス様はそのために生まれ、そのためにこれまでの歩みがあり、いよいよ今大きな苦しみの待つエルサレムに向かって歩んでおられるのです。私たちの罪を赦して下さるという救いのみわざを完成するために、苦しみを耐え忍んで歩み続けて下さったのです。神様の愛を振り払って自分中心に歩む人々のために、イエス様は来てくださいました。これまでは神様が遣わされた預言者たちは殺されてしまいました。イエス様も同じく殺されます。しかし、イエス様はご自分が神様の愛を振り払って歩む人々に殺されることで、人々のその罪をご自分の身に負って償ってくださいます。神様の愛を振り払う罪を、殺されることで償ってくださるのです。イエス様の十字架の死は、イエス様を殺そうとした人々の罪による死ですが、それはまた、イエス様がご自分を殺そうとした人々の罪の赦しのための死でもあったのです。苦しみを受けつづることによって、人々の罪の赦しが成り立ちます。イエス様は苦しみを受け

つくしてくださいました。イエス様は十字架の上でまず「父よ、彼らを赦してください。彼らは自分で何をしているのかわからないのです」と叫ばれました。彼らに殺されることで彼らの赦しを完成なさいました。ですからイエス様は、エルサレム以外では死にません、と言われました。

そして第三に、イエス様はエルサレムのために嘆かれたのです。イエス様の苦しみと嘆きは、人々を愛しておられたからこそその苦しみと嘆きでした。人は生まれつき神様のことを知らないで生まれてきます。神様はこの世にいないのではないかと想定して生きています。自分も自己中心ですし、世の人々も自己中心です。それで自分のことしか見えないでいるのです。しかし、神様は神様のもとから離れてしまった人類をなお愛してくださっています。自分中心に歩む人類を探し求めています。ついに神の独り子のイエス様を人として私たちのところにお遣わし下さいました。しかし、人々は宿屋にも迎えず、王は命を狙い、そして人々はイエス様を自分中心な解釈をしてローマ帝国から解放してくださる救い主だと期待をかけて、それが裏切られると十字架につける、と叫びました。民の指導者も、自分たちの権威が危うくならないように考えて、イエス様を十字架につけるためにたくさん会議を開いて策略をめぐらせました。神様がこれほど人々を大切に思って歴史のさなかに送ってくださった御子イエス様を、人々は全く受け入れませんでした。そこにエルサレムのために嘆いたイエス様の悲しみがあります。

しかし、イエス様はその悲しみをもったまま十字架で人々の願い通り死んでくださいました。悪魔は救い主の命を奪うことができた、と喜んだでしょう。イエス様を苦ませ、死においやったことで悪魔も人々も願いがかなったと思ったでしょう。けれどもイエス様は十字架で命をあたえてくださったことで、人々の罪のかわりに神様からの罪の刑罰を受けてくださったのです。十字架にかけた人々の罪の裁きを、その十字架で代わりに受けてくださったのです。また、悪魔のイエス様を亡き者にするその全力をイエス様はその身に受け止めて死んでくださり、そしてよみがえったその命で悪魔を圧倒してくださいました。悪魔の力は十字架で終わりました。悪魔の力は滅ぼされ、イエス様が主となってくださいました。

四旬節の今、私たちは私たちのために苦しみを通してくださるイエス様の愛を覚えます。どれほど愛されてもその愛を振り払って自己中心に生きようとする私たちの心のかたくなさや罪深さのために、イエス様は苦しみを味わってくださいます。イエス様の愛は私たちの罪深さを上回って大きいのです。

ですから、私たちは人々のために苦しみを喜びましょう。喜んで人々の役に立つために苦勞を引き受けましょう。自分だけの喜びのためではなく、隣人とともに幸せをつくっていく苦勞と喜びを味わう歩みを、今週も続けてまいりましょう。

預言者がエルサレム以外の所で死ぬことはありえないからだ。ルカによる福音書 13 章 33b 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讚美歌 301 番 献金 献金感謝の祈り

1. 山べにむかいてわれ 目をあく 助けはいずかたより きたるか
あめつちのみかみより 助けぞ われにきたる
2. **み神は汝の足を 強くす み守りあれば汝は 動かじ**
み民をば守るもの まどろみ ねむりまさじ
3. み神はあだをふせぐ 盾なり 汝が身をつねに守る かげなり
夜は月、昼は日も 汝をばそこなうまじ
4. **み神は災いをも さけしめ 疲れし魂をも 休ます**
いずるおり、いるおりも たえせず汝を守らん アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏